

目次

序

i

第一章 ジェンダーはいかに再生産されるか？

～ Doing Gender & Undoing Gender ～ 上野千鶴子

1

- 一 ポスト構造主義のジェンダー概念 1
- 二 ジェンダーは言語がつくる 4
- 三 「状況の定義権」をめぐる権力闘争 8
- 四 非対称な差異化実践としてのジェンダー 11
- 五 「Doing gender」という言説実践 15
- 六 ミソジニー・ホモソーシャル・ホモフォビアの三点セット 19
- 七 家父長制の共犯者としての女 29
- 八 「Undoing gender」と理論の力 32

第二章 エーヤーワデー流域地方の民族識別について

伊東利勝

35

はじめに 35

人格をもった「民族」／真理の探究に非ず

一 「民族」は定義できない 39

「日本人」のステレオタイプ／空虚で情緒的／共通の「文化」／

幻想としての根源的紐帯／「国民」や「民族」を作りあげる「文化」概念／

近代が生み出した「文化」

二 コンバウン王国における「百一の人種」 51

仏教による王権の正統化／中央集権化による民族問題の発生／「百一の人種」／

多様な「百一の人種」理解／「百一の人種」図は同系統／インサウ年代記／

個人による想像の産物／民族衣装

三 現代の「民族」区分 67

不明瞭な一三五の人種区分／紆余曲折した英領下の人種分類／

宗教に注目したセンサス／群による分類／分類法の完成／

群による人種区分へ／政治的要請による人種分類

四 人種区分の意味 80

出自や出身地、職種としての人種／仏教的世界観のなかでの人種／

王権正統化の装置／数字によるステレオタイプ化／

人を管理・支配するための「人種」区分／「文化」による政治が「民族」をつくる

おわりに 93

現状の固定／「多文化共生策」は民族差別を助長する

第三章 カナダ多文化主義の光と影

〈カナダにおける日系人や移民を中心に〉 岡田健太郎

99

はじめに 99

政治とは？ 政治学とは？

一 カナダという国を理解するために 104

実は似ている日本とカナダ 〈政治制度や高度な福祉国家〉

日本とカナダの違い 〈移民をめぐる〉

二 多文化主義カナダの現在 110

日本のなかのカナダ・英連邦 〈横浜市保土ヶ谷区の「英連邦戦死者墓地」から〉

お墓から知るカナダのエスニシティ（民族）のありよう

アメリカとカナダの多文化主義の違い／おいしいカナダ 〈エスニック料理を食べ歩く〉

三 カナダにおける日系人の足跡をたどる 〈カナダ西岸バンクーバー島の小村から〉

出稼ぎか、それとも定住か／炭鉱町カンバーランドと日本人移民／カンバーランドでの生活

バンクーバー近郊の日本人街 〈ステイプストンとパウエル通り〉

去り行く日系人が残した手紙 〈Our HOMESを追われて〉

戦後の日系の人々 〈「償い (Redress)」をめぐって〉

まとめ 147

第四章 「障害／障害者」はどのように生み出されるのか 土屋 葉 153

はじめに 153

一 近代市民社会と「障害者」カテゴリーの誕生 154

近代市民社会の成立とジレンマ／「自立」を可能にするための援助の形態／国民の三層構造化

二 「障害とは何か」をめぐって 163

「障害」の分節化／障害の社会モデル／

“impairment”と“disability”の境界／社会的排除としての“disability”

まとめにかえて ～「障害」は「かれら」の問題であるのか～ 170

第五章 生物の進化から多様性の意義を考える 関 義正 175

はじめに 175

心理学とは／動物心理学

一 進化 178

進化のメカニズム／進化をトリのくちばしの例で考える／

ヒトは進化の頂点にいるのか／進化についてのまとめ

二 人間中心主義 184

動物と人間とどちらが偉い？／動物もヒトと同じように感じる・考える？／

自己中心的世界観／トリの「会話」？

三 カテゴリー化 193

生物学的な分類はいつも正しい？／種の保存？

まとめ 200

あとがき（ナシヨナリストの言語）

権力を可視化するための学問／線を引く／上下にわかる線／線は「国家」の都合／
線を引くナシヨナリスト／カテゴリーで人をみない

執筆者紹介